

目次

支部長就任挨拶……………	2
令和七年度教化研修会開催のお知らせ……………	4
令和七年度神社庁々務方針……………	5
教化委員長就任挨拶及び活動方針……………	6
令和八年「日本の神話」カレンダーの頒布について……………	6
神道政治連盟埼玉県本部長就任挨拶……………	7
埼玉県神社氏子総代会会長就任挨拶……………	7
本宗奉賛委員会委員長再任挨拶……………	8
埼玉県神道青年会会長就任挨拶……………	8
第四十六回埼玉県神社関係者大会報告……………	9
神社庁役員等改選……………	10
庁務日誌抄……………	12
第七十二回伊勢神宮新穀感謝祭 「埼玉県神社庁参宮団」のご案内……………	12



第253号

発行 埼玉県神社庁
さいたま市大宮区高鼻町1-447-1
電話 048(643)3542
編集 庁報室
印刷 株式会社アサヒコミュニケーションズ



天皇陛下第七十五回全国植樹祭御臨場につき秩父地方御視察 於 秩父神社 (神社新報社提供)

支部長就任挨拶

北足立支部長再任挨拶

吉田正臣



この度、二期目の北足立支部長を拝命致しました。再任させていただいたことは、誠に光栄であります。誠に重責を痛感しております。

前期より、支部内外の皆様のご理解とご協力により北足立支部の諸活動が充実して参りました。

本年は、大東亜戦争終結八十周年の年となります。英霊に対し慰霊の誠を捧げるべく靖国神社・護国神社への参拝を積極的行いたいと思います。また、第六十三回神宮式年遷宮の諸行事が始まりました。当支部は、各神社の氏子総代に神宮大麻頒布始祭への参列を頂き、神宮と神宮大麻への理解を深め、参宮を奨励していきたいと思っております。

この三年間の任期は、式年遷宮奉賛の準備期間となります。その為にも、氏子の皆さんに対して、神宮・神宮大麻・遷宮への理解を高めていただく為の教化活動を展開して参ります。

各事業を通して、神職及び氏子総代の教化と親睦を推進して参ります。神職と総代が丸となり、神社の護持運営に務め、氏子崇敬者の平穏と地域の発展に積極的に関与していきたいと思っております。

微力ではありますが、斯界の為に全力を尽くす所存です。皆様方のご指導とご鞭撻を賜ります様お願い申し上げます。

人間東支部長就任挨拶

仲富祥則



この度、人間東支部長に就任させていただきました。元より浅学菲才な身故、この重責を痛感

しております。この上は、支部の精鋭理事の力をいただき、歴代支部長が積み上げてこられた支部の理念を引き継ぎ、力を尽くしてまいりますので、ご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

今年は、昭和百年・終戦八十年という時代の節目にあたることを機に、支部神職会・総代会の共催により、靖国神社正式参拝研修を実施いたします。

また、神宮大麻増頒布活動はもとより、今後の諸活動については、時局を鑑みつつ神社庁の指針をもとに支部活動を推進してまいります。今後とも支部内で問題意識を共有し、目標に向かつて邁進しつつも、寛ぎを感じられる支部であり続けるよう努めてまいりますので、ご理解ご協力をお願い申し上げます。

人間西支部長再任挨拶

枝窪邦茂



此の四月より人間西支部長に再任しました。浅学菲才ですが、ご指導ご鞭撻のほどよろしく願います。

去る五月二十四日、入間市下谷ヶ貫しもやがぬきにあります県立茶業試験場に天皇陛下の行幸を頂きました。日頃から丹精込めて栽培している茶畑を、車窓より御覧頂けたものと存じます。入間西支部神職として、又茶栽培農家としても大変光栄に思います。

そして、本年が終戦八十年の節目にあたることから当支部では総代会と共催し、九月と十月に靖国神社参拝旅行を企画しております。護国の英霊に対し慰霊と顕彰に努め、英霊尊崇の念を次世代に継承するよう力を尽くします。

これからも、地域の氏子崇敬者に寄り添い、少しでも周りの人と仲良く過ごせるようにしていきたいと思っております。そして、家庭や地域が誇りを持てる神社の活動を心がけたいと思います。

比企支部長再任挨拶

岡部 憲夫



前期に引き続き、比企支部長を務めることになりました。本務は比企郡川島町鎮座日枝神社宮司を拝命しております。

比企支部は、比企郡市及び東秩父村からなる支部でして、過疎化が進み、少子高齢化の影響も大きく、年々氏子数が減少しております。神社を取り巻く環境が大きく変化をしていく中で、神社を護持・運営していかなければならない神職にとって、厳しい地域だと思います。

私は、サラリーマン生活が長く五十歳を過ぎてから神社に奉仕し、定年後に本格的に神職としての活動をはじめました。馴染みも少なく不安もありましたが、役員会や各種研修会を通して横のつながりも出来ました。

今期は、神宮式年遷宮の奉賛活動も始まりますので、比企支部をまとめ、過疎地域の神職代表として、神社庁と共にその発展にも寄与出来るように頑張っていきたいと思っています。宜しくお願い致します。

秩父支部長再任挨拶

曾根原 正宏



畏くも天皇陛下には、五月二十五日、当支部管内に所在する秩父ミューズパークにおいて開催された「第七十五回全国植樹祭」に臨御され、秩父に縁ある樹木を御手植え・御手播き賜りました。

また陛下より「美しい自然、森林や緑を守り育てる活動が今後とも多くの人々によって支えられるとともに、次の世代に着実に引き継がれ、発展してゆくことを期待します」との「お言葉」を賜りましたことは、改めて社叢のあり様に心を寄せた次第です。

令和七年度より向う三年間、秩父支部長の任に当たることとなり、二名の副支部長には、蘭田建秩父神社宮司並びに中山昌人三峰神社権宮司に就任願ひ、中山高嶺神社本庁長老三峰神社宮司を顧問と仰ぎ管内神職一丸となつて事に当たる処となりました。

喫緊の課題は、神職はじめ氏子崇敬者の高齢化と地域過疎化が如実となり、神社存続が危うい状況下にある法人を含め、現存する九十三社の護持と神職の後継者確保を如何に図るかにあります。直面する課題の解消に向け、秩父地域の全氏子総代と心を一つに宜しき道を拓いてゆく所存です。

大里児玉支部長就任挨拶

持田 倫武



この度、ご推挙いただき支部長を拝命致しました。就任から早くも三ヶ月が過ぎましたが、浅学寡聞の私には身に余る重責であることを、日々痛感しております。

六月十九日には、就任後の大役として第四十六回神社関係者大会を関係各位のご協力により無事に開催することができました。誠にありがとうございました。

今年は大東亜戦争終結八十年、また、第六十三回神宮式年遷宮の諸祭が斎行されるなど、大きな節目の年となります。一方、支部管内を見ても過疎化や若い世代を中心とした宗教離れによる氏子数の減少など課題が多々あります。この機会に改めて英霊尊崇や日本人の精神的支柱である神宮をはじめとする神社についての理解が若い世代を含めて一層進むよう取り組みたいと思います。皆様のご指導ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い致します。

さきたま支部長再任の挨拶

中村 邦彦



此度、さきたま支部長にご推挙いただき、再任いたしました。前期の三年間は、神社庁は元より、支部神職皆様の御蔭をもちまして大過なく過ごす事が出来ました。有り難う御座いました。

さて、今期は二つの事業を最優先で行うことを考えております。先ず一つ目は、九年前に作った支部規則の改則を行うことです。二つ目は、過疎地域等神社活性化推進施策について積極的な活動することです。支部規則については、九年前と現状では不都合な部分が有り見直す必要があります。過疎地域等神社活性化推進施策については、事業内容を学び、又、多岐にわたる相互扶助の観点から「神職派遣システム」の構築と試験的運用の実現について努めていきたいと思ひます。

振り返りますと、就任当時は新型感染症の影響もあり、支部運営に支障をきたす事も多く御座いました。しかし、幸いにして二年三年と事業を推進する事が出来ました。これからの三年間も支部運営に邁進致しますので、宜しくお願い致します。

埼玉東支部長再任挨拶

高梨 佳樹



この度、埼玉東支部長にご推挙いただき、二期目の三年間を務めることとなりました。引き続き皆様のご指導ご協力を頂きますようお願いを申し上げます。

さて、本年は大東亜戦争終戦八十年の節目を迎えます。この節目の年に総代会、関係者の皆様と機会を捉えて、靖国神社への参拝を始め、御英霊に対して慰霊と顕彰に努めたいと思ひます。

又、第六十三回神宮式年遷宮に向けて、諸行事が着々と進められている中で、当支部といたしまして今後進められる組織の準備等、神宮啓蒙活動と神宮大麻の増頒布に努めて参りたいと思ひます。

その他、世代交代が進む支部の円滑な運営と支部内神職相互の研鑽と親睦等に努めたいと思ひます。

令和七年度「教化研修会」開催のお知らせ

期 日 令和七年九月十九日(金・仏滅)
開催方法 埼玉県神社庁講堂における研修及びWEB会議システム(Zoom)を利用した遠隔研修を併用した研修
対象者 千円(支部にて一括納入下さい)
参加費 「神社の未来を考える」
研修主題 「神社の役割と効果的な情報発信を探る」
副題 現代社会において、少子高齢化や都市部への人口集中、地域共同体の希薄化といった社会構造の変化が急速に進む中、神社を取り巻く環境もまた大きく様変わりしています。地域社会に根ざした存在である神社においても、かつてのように人々の暮らしと自然に結びついていた関係性が失われつつあり、氏子の減少や祭礼の簡略化、後継者不足といった課題が深刻化しています。

この様な社会構造の中、神社は伝統文化の継承地であると同時に、精神的な拠り所としての役割があらためて見直されつつあります。地域に暮らす人々との関わり、信頼を築いていく。今こそ、神社運営においては新たな視座と柔軟な取り組みが求められています。とりわけ、SNSや各種メディアを活用した情報発信は、現代における神社と地域を結ぶ有力な手段となっています。若年層をはじめとする新たな層へのアプローチや、神社の魅力・役割をわかりやすく伝える広報活動は、地域とのつながりを再構築し、持続可能な運営を目指すうえで不可欠な取り組みと言えるでしょう。

本研修会では、神職が主体となつて地域社会と向き合い、共存共栄を実現していくための実践的な知見を深めることを目的に、「広報」「地域連携」「実践」の三つの視点から学びを深めます。それぞれの講演を通じて、変化する社会の中で神社が果たすべき役割を見つめ直し、これからの神社運営のあり方について考える機会といたします。

講師 藤本 頼生先生(國學院大學神道文化学部教授)
河野まゆ子先生(株式会社JTB総合研究所地域交流共創部長)
提著 照之先生(栃木県・伊勢神社宮司)

※支部事務局宛にお申込み下さい。

令和七年度神社庁々務方針

武田 淳

三月十九日、神殿鎮座記念祭を斎行し、定例の埼玉県神社庁協議員会が開催され、令和七年度の予算が承認可決されるとともに、任期満了に伴う役員改選が行われ、高麗文康庁長が再任、小林一朗・東秀幸の二名が副庁長として指名され、承認された。新役員(理事・監事)もそれぞれ選任され、高麗庁長二期目の新年度がスタートした。ここに前の協議員会の報告を兼ねて今年度の庁務方針について概要を報告する。

新年度予算について、歳入では、本庁第二交付金は神宮大麻暦の頒布数減体により、前年比百六十九万六千円減額となった。予算総額としては、二億五十万千円となった。歳出においては、前年度の予算執行状況も勘案し、全般的に予算編成を行った。神事費については、装束や祭式研修などで使用する祭具の追加購入を予算内で検討している。庁事務費、会議費については、昨今の物価の高騰を踏まえ、増額で予算計上した。諸給与については、職員の定期昇給に伴う関係で増額計上した。教化啓蒙費については、教化委員会や本宗奉賛委員会など発足初年度という事と「お宮と親子の集い」の助成金廃止に伴い減額計上となった。各支部が主体となつて行う教化事業に対する助成金や研修会

に対する助成金について見直しを行い、支部費を前年度より増額計上した。様々な物価が高騰している事もあり、今年度も厳しい予算状況に変わりなく、予算執行に当たっては今後も諸経費の削減に努めて参る所存である。次に斯界の本宗と仰ぐ伊勢の神宮の御事について、五月二日には山口祭・木本祭、六月三日には御杣始祭が斎行され、第六十三回神宮式年遷宮へ向けた諸準備が順調に執り進められております。

本宗奉賛の柱である神宮大麻暦の増頒布運動や参宮促進活動の展開について、本宗奉賛委員会や教化委員会と連携して引き続き施策を講じていきたい。神宮大麻の頒布数は、全国的に減体傾向にあり、本県においても残念ながら減体傾向にある。こういった状況に歯止めをかけるべく、本宗奉賛委員会を改編し、神職一人一体、各神社一%アップをスローガンとする「One ポイント UP」運動を展開している。引き続き今年度も神宮大麻に関する展示広報活動を行う予定である。また内部向けとして講演会や研修会を開催し、県内神職に対し遷宮に向けての機運を醸成して参りたい。

次に教化活動については、教化委員会や研修所講師会などの全面的な協力を得て、各種

研修会・神話カレンダーをはじめとする教化資料の作成など更なる内容の充実に努めて参りたい。その他、次代を担う後継神職の育成の充実を図り、現任神職に対しては社会の師表に足り得る人材養成の為の各種研修やミニ講座などもオンライン併用で実施していく。近年地震や水害などの自然災害が多発し、各地で甚大な被害がもたらされている。当県においてもいつ発生してもおかしくない。平時より備えを行い、災害が発生した際の対応など神社庁として出来る災害対策を講じて参りたい。昨今宗教施設が自治体から災害時協力を要請されたり、避難所や緊急避難所に指定されたりするケースも増えている状況についても対応を検討していきたい。

最後に神社庁からの通知文等のペーパーレス化について神社本庁と協議を重ねているが、なかなか進展していない事にお詫びを申し上げる。本年六月に神社本庁内に「事務効率化に関する検討部会」が設置され、私が関東地区の代表として出向している。一日も早く仕組みが構築出来るように働きかけを行なつて参る所存である。

神社界を取り巻く環境は、より厳しい状況にあるが、神社庁役職員一丸となつて諸問題に取り組んで参りたい。今年度も、各位の尚一層のご理解とご協力をお願い申し上げる次第である。

(神社庁参事)

教化委員長就任挨拶及び活動方針

山田 禎 久



この度、教化委員長を仰せつかることとなりました。元より浅学菲才の身ではありますが、が精一杯務めて参りますので、何卒お力添えのほどお願い申し上げます。幸い中山昌人氏・嶋田土支彦氏といった経験豊富なお二人に副委員長をお受けいただき、また各支部より多くの委員の皆様をご推薦いただきました。多彩な顔ぶれの委員の経験や知見を得て今後三年間、活発な活動を行えることと大変心強く感じております。

三期前、私が委員長を務めていた平成二十九年度には、國學院大學ご協力のもと県内宮司とご家族を対象とした実態調査を実施しました。その結果、今後の神社継承・祭りの継続に対して大きな不安がある、との回答が数多く寄せられたことを記憶しています。

そうした不安の背景には、経済的な問題・地域の人口減少や高齢化に伴う懸念・人生観や結婚観の変化・さらには信仰心の変容や祭りの担い手不足などがありました。一見するとこれらはいかにも今日らしい、新たな時代背景ゆえの不安に思えますが、実は県内神職が少なくとも五十年以上にあたり向き合い続けた「変わらぬ課題」でもあるのです。実際昭和四十年代の神社庁報は、同様の危機感に基づき意見を交わし合う先輩諸兄の様子を伝えています。

神社は永く地域に支えられ、地域住民の

心の拠り所として今日まであり続けてきました。祭りは日々の暮らしから生じる真摯な祈りや共同体の切実な願いを反映していますし、更にその賑わいを起点に新たな生業や交通が生まれました。「イチ(市)」「マチ」は「マツリ」と同源の言葉とも言われます。そうなる地域との記憶は土地の神社にこそ最も色濃く刻まれているはずで、都市部・山間部・農村部、それぞれの神社は独自の由緒と特徴を持ち、一社として同じお宮はありません。社頭での教化活動もまた、どこにでも当てはまる均質なものではなく一社一社異なるあり方を目指すべきだろうと考えます。

今期の活動主題には『祭りがあつ続ける未来』地域に根ざした神道教化』を掲げました。各社それぞれの御祭神・鎮座地の地勢や産業、歴史や伝承などを今一度踏まえ直した上で、地域柄を生かした教化活動の展開に挑戦したいと考えています。

斯界の先人たちも今の我々と同じ課題を抱えていたことを大きな励みとしつつ、何百年後の世にも、地域の信仰に根ざした祭りがあつ続ける未来を目指して、神社継承と社頭護持・祭りの担い手育成の一助となるべく取り組んで参ります。

なお、教化委員会の編成は十一頁の通りです。これまで同様に諸研修会やミニ講座、対外教化事業、神話カレンダー制作、ホームページ・SNSを通じて広報活動などを行いつつ、新たな教化活動の可能性も模索して参ります。

令和八年「日本の神話」カレンダーの頒布について

梅林 正 樹

日本神話を家庭の中で目にする機会を提供し、その大切さを多くの方々知って頂くために続けて参りました「日本の神話」カレンダーも今回で二十七作目になります。

昨年のカレンダーでは、木花之佐久夜毘売が御子を出産する場面までを描きました。これを受け令和八年は、その御子である二人の兄弟「海幸山幸」の神話を取り上げました。物語は、二人の御子が互いのサチを交換する話から、山幸彦が豊玉毘売と結婚し、後に神武天皇の父親となる鸕鷀草葺不合命を出産する場面までを扱っています。

又、昨年から従来の壁掛け型に加え、中綴じ冊子型のカレンダーを新たに作製し、頒布しております。中綴じ冊子型のカレンダーはA4判と扱いやすく、本の様に過去の神話を読み返すことができます。どちらの仕様も参拝者への記念品や御社頭での教化活動にご活用頂けますと幸いです。

一、仕様

【B3判壁掛け型】
表紙・本文七枚カラー
【A4判中綴じ冊子型】
表紙・本文十六頁カラー

一、代金

どちらも一口(五〇部)一〇、〇〇〇円
一口以上は半口でもお受け致します。
(例：一五口 七五部)

一、申込

神社庁宛(八月三十一日締切)
※Googleフォーム・当庁神職専用サイト・申込用紙のいずれかでお申し込み下さい。

一、配布

十月上旬発送

(教化広報部班長)



神道政治連盟埼玉県本部長就任挨拶

東 秀 幸



この度、神道連盟本部長を拝命致しました。微力ながら本連盟の活動方針に則り役員・会員の皆様と共に尽力して参る所存でございます。何卒宜しくお願い致します。

さて、本連盟は昭和四十四年神道の精神を以て国政の基礎を固め、且つその姿勢を匡さんがため結成され、昨年で五十五周年の佳節を迎えました。卓抜した指導力を以て道統恢弘に貢献され、斯界の発展に寄与された先人等のご功績に謹んで敬意と感謝を表する次第でございます。

また、次代に引き継がれた諸問題に対するのは、我々の使命であると存じます。その第一として「男系男子による安定した皇位継承と皇室の尊厳護持」であります。皇位に係わる歴史的事実や皇室への正しい見識を広め、旧宮家の男系男子孫の養子縁組への理解をすすめます。所謂皇族の減少という問題に対しては、女性皇族が婚姻後も皇族としての身分を保持して頂くことで対応できるのではないかと考えております。

第二として「憲法改正」についてです。実力部隊である自衛隊の明記及び緊急事態条項の新設は安全保障上の重要課題であります。また日本の歴史を反映した前文の改正等々我が国にふさわしい憲法の制定が望まれます。

令和七年は昭和百年、大東亜戦争終結八十年にあたります。正しい歴史認識を以て英霊顕彰と靖国神社への参拝勸奨・埼玉県護国神社奉斎に引き続き取り組みます。また、時局研修会を開催し、見識を深めて参ります。

今夏、参議院議員選挙が行われ、比例区において有村治子候補を推薦し応援しました。この庁報の発刊時には結果も出ていますが、有村候補には国政を匡す活躍を期待致します。

埼玉県神社氏子総代連合会会長就任挨拶

大 野 隆 司



この度、県神社氏子総代連合会会長を拝命致しました。武蔵一宮永川神社氏子総代の 大野隆司と申します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

大野光政前会長には、長期にわたり当会の会長として神社維持発展に多大な貢献をされました。ご尽力に対し心より御礼と感謝を申し上げる次第です。

昨年、第六十三回神宮式年遷宮の儀が正式に御準備着手することが告げられました。言う迄もなく、式年遷宮は二十一年に一度御正殿を始めとする諸殿舎と御装束神宝のすべてを新しくして大神様に新宮へ御遷り頂き、国と国民の平安と発展を祈る我が国最大のお祭りです。今年、令和七年以降九年の歳月を費やし多くのお祭りや行事を行い、「遷御の儀」を迎えます。今、日本の国では政治、経済、社会に対し課題問題を抱えています。その中で「喫緊の課題」として取り組むべきは次の四点と言われています。

一、少子高齢化
世界的に見ても少子高齢化が進んでおり、労働人口の減少や社会保障費の増加といった問題が生じています。

二、経済成長の鈍化
少子高齢化やグローバル化による競争激化、そしてインフラなどが経済成長を阻害しています。テクノロジー・イノベーション・ＩＴ化の推進は、特に中小の企業にとって焦眉の急です。

三、インフラの老朽化
道路・橋・トンネル・高速道路・上下水道管・ダムなどの公共施設が老朽化しており、維持管理費の増額や安全性の問題が懸念されています。

四、自然災害リスクの増大
気候変動の影響で、豪雨・台風・地震などの自然災害が激化しており、その対策が安全保障の要です。

さて、総代として客観的に神社を見たとき、多くの日本人にとって、神社に参拝するのは、信仰心からというより習俗、社会的慣習だからという意識による場合が多いと思われます。しかし今日の日本の世相は、神道である神社の伝統的な価値観や文化が反映されており、そして神社が地域社会の結びつきを維持する場として役割を担っていることが挙げられます。

神社と地域社会の役割については、地域の祭事(イベントや行事)の開催場所として利用されていること、このことにより地域住民との交流を促進する役割も担っています。更に神社は、人々が心の安らぎを求める場所としても存在しています。現代社会では、精神的なストレスを抱える人も多く神社に行き安らぎを感じ祈りを捧げることで、心の安定を求める人が増えています。また此のところインバウンドが増大しています。神社は、観光資源としても重要な存在です。特に有名な神社や歴史的神社は国内外からの観光客のスポットとなっています。

いろいろ述べましたが、神社庁長、副庁長をはじめ多くの皆様にご鞭撻いただき、微力ながら神社発展に努めますのでどうぞ宜しくお願い致します。

本宗奉賛委員会委員長再任挨拶

馬場 裕彦



この度、高麗文康庁長のご指名をいただき、引き続き本宗奉賛委員長を拝命いたしました。身に余る光栄であると同時に、その責務の重大さを改めて痛感いたしております。

前期におきましては「One ポイント UP」運動の一環として、神職一人につき一体の増頒布、ならびに各神社における1%の増体を目標に掲げ、県内各地の皆様のご尽力により、神宮大麻の頒布推進において一定の成果を収めることができました。これも偏に関係各位のご支援とご協力の賜物であり、ここに深く感謝申し上げます。

今期におきましても、当該運動を継続し、さらなる増体を目指してまいります。また、本年度より斎行される第六十三回神宮式年遷宮の諸行事を鑑み、神宮大麻の増頒布運動を本宗奉賛の柱として、より明確なガイドラインのもと、着実に推進してまいれる所存です。さらに、神職や氏子の皆様への理解促進を目的とした勉強会・研修会の充実に努めるとともに、地域特性に応じた展示会や広報活動を展開し、神宮大麻奉斎の意義を広く伝えてまいります。

また、中長期的な視点に立ち、社会の変化にも対応し得る新たな普及手法(例えばデジタルの活用など)の構築にも取り組んでまいります。

神宮大麻の頒布を通じて、御神威を広く伝え、国民の敬神崇祖の念を涵養することは、誠に意義深いことであります。伝統文化の継承を図りつつ、地域社会の精神的支柱としての役割を果たしていくことを念願し、今後も誠心誠意、奉賛活動に邁進してまいります。

何卒、皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

埼玉県神道青年会会長就任挨拶

松岡 宏聡



この度、神道青年会会長を拝命いたしました。行田市鎮座行田八幡神社宮司松岡宏聡でございます。諸先輩方が永年にわたり築き上げてこられた尊き伝統と信頼ある組織をお預かりすることとなり、身の引き締まる思いとともに、その重責を痛感しております。

我が神道青年会は、神職としての資質向上と会員相互の親睦と研鑽を重ねながら、長きにわたり歩んでまいりました。現代社会において神社の果たすべき役割は多様化しており、地域の安泰と人々の心の拠り所として、これまで以上に神職の在り方が問われる時代となっており、その中であって、我々青年神職は、伝統に根ざしながらも柔軟な思考と新たな視点をもって、神道の心を次代へと正しく継承していかなければなりません。

また本年は、大東亜戦争終結から八十年という大きな節目を迎えます。祖国の安寧と家族の平穏を祈り、命を賭して国に尽くされた英霊の御霊に対し、深い感謝と哀悼の誠を捧げるとともに、我々はその尊い犠牲の上に成り立つ平和の意義を改めて胸に刻むべきであります。

さらに、伊勢の神宮においては第六十三回神宮式年遷宮の諸祭祀が始まり、斯界にとつても大いなる節目であります。常若の精神は、まさに我々青年の志と重なるものであり、神明奉仕の道を歩む決意を新たにす好機であります。

会長として、会員の声に耳を傾けながら、信頼と絆に満ちた会運営を目指してまいります。地域に根ざした活動を通じて、神職としての使命を果たすと同時に、未来に向けた確かな一歩を共に築いてまいりたいと存じます。

結びに、諸先輩方並びに関係各位のご指導ご鞭撻をお願い申し上げますとともに、会員各位のご支援とご協力に心より感謝申し上げます。就任のご挨拶とさせていただきます。

第四十六回埼玉県神社関係者大会報告

高野 浩 成

六月十九日、第四十六回埼玉県神社関係者大会が大里児玉支部当番のもと、熊谷市「熊谷文化創造館さくらめいと」にて五二五名の神職・総代参加のもと開催されました。

加賀崎千秋大里児玉神社氏子総代会会長による開会の辞に始まり、神宮並びに皇居遙拝国歌斉唱、敬神生活の綱領唱和の後、高麗文康庁長式辞・大野隆司県神社氏子総代連合会長挨拶に続き、神社本庁統理御名代田中恆清神社本庁総長・神宮大宮司御名代堀川孝雄神宮参事・打田文博神道政治連盟会長・有村治子参議院議員・森田俊和衆議院議員よりご祝辞を賜りました。

続いて神社庁規程表彰総代会恒例表彰が行われ、神職・総代・神社関係者二十八名が表彰の栄に浴されました。

次に持田倫武大里児玉支部長より、大会宣言(案)が朗読され、満場の賛同を得て原案の通り承認されました。

休憩の後、公益財団法人洪沢栄一記念財団業務執行理事井上潤先生による『現代に生きる洪沢栄一』と題し記念講演が行われました。洪沢栄一の生い立ちやその時代背景、道徳と経済の両立の重要性を説いた「論語と算盤」の思想をもとに数多くの企業設立に加え、社会福祉事業にも尽力されたこと。さらには、

教育への重要性と女性の活躍について、一橋大学や東京女学館、日本女子大学の創立に深く関わり、教育への貢献と女性の活躍推進といった現代社会の礎を築かれた事績をご講演いただきました。

次に、次年度当番の挨拶では、来年は埼玉県神社庁設立八十年の節目を迎えるにあたり、神社庁が主管として執り行うことが東秀幸副庁長より報告があり、小林一朗副庁長の先導により聖寿万歳の三唱、久保田一男県神社氏子総代連合副会長が閉会の辞を述べ、大会の幕をおろしました。

(大里児玉支部事務局長)



当日の様子

宣言

本年は大東亜戦争終結八十年の節目を迎える。畏くも天皇皇后両陛下におかせられては、四月に硫黄島を、六月に沖縄と広島を行幸啓遊ばされ、各地で深い哀悼の祈りを捧げられた。我が国繁栄の礎となった英霊に対する大御心を拝し奉り、我々は改めて英霊尊崇の念の醸成と靖国神社・護国神社奉斎の意義の喚起に努め、次世代に継承しなければならぬ。

本年五月二十五日、第七十五回全国植樹祭が天皇陛下御臨席の下、秩父ミューズパークで開催された。陛下はお言葉の中で、秩父の山々に御登りになり、その豊かな自然に親しまれた御経験を御紹介された。折しも、六月三日には第六十三回神宮式年遷宮の諸祭である御杣始祭が木曽谷国有林にて古式ゆかしく斎行され、伐り出された樹齢三百年を超える御用材は多くの人々の手により神宮へと曳行された。我々は改めて、森林を始めとする自然の恵みに思いを致さなければならない。

本日茲に、我ら神社関係者一同は、心新たに英霊顕彰に努め、靖国神社・護国神社へ赤誠を捧げると共に、豊かな自然の中で伝統を育んできた先人の足跡を踏襲して健全な森林の保護育成を誓う。

右、宣言する。

令和七年六月十九日

第四十六回埼玉県神社関係者大会

神社庁役員等の改選

任期満了に伴い役員等の改選がなされ、
各々左記の通り新役員・委員が選任された。

神社庁役員

庁 長	高麗神社宮司	高麗 文康
副庁長	久伊豆神社宮司	小林 一朗
副庁長	幸宮神社宮司	東 秀幸
理事	氷川神社権宮司	東角井真臣
理事	調神社宮司	吉田 正臣
理事	坂戸神社宮司	仲富 祥則
理事	三輪神社宮司	枝窪 邦茂
理事	日枝神社宮司	岡部 憲夫
理事	寶登山神社宮司	曾根原正宏
理事	荒川神社宮司	持田 倫武
理事	菖蒲神社宮司	中村 邦彦
理事	第六天神社宮司	高梨 佳樹
理事	氷川神社宮司	山田 慎久
理事	久伊豆神社宮司	馬場 裕彦
理事	氷川神社総代	大野 隆司
監事	御室社禰宜	中山 高明
監事	萩日吉神社宮司	松岡 崇

本庁評議員

高麗神社宮司	高麗 文康
久伊豆神社宮司	小林 一朗
幸宮神社宮司	東 秀幸
氷川神社総代	大野 隆司

神社庁協議員会

議長	(秩 父)	大澤 孝
副議長	(埼玉 東)	鈴木 重臣
副議長	(入間 東)	久保田 一男
	(北足立)	吉田 正臣

(入間 東)

(入間 西)

(比 企)

(秩 父)

(大里見玉)

(とぎたま)

馬場 直也	吉田 孝年	宮本 洋平	石井 哲朗	新藤 英子	嶋田土支彦	石山 寿昭	大野 隆司	仲富 祥則	山田 慎久	岡本 行雄	原 泰明	久保田 一男	枝窪 邦茂	高麗 文康	横田 正司	宮本 剛義	中 義之	秋元 修	岡部 憲夫	甲田 豊治	須田 秀行	根岸 豊	曾根原正宏	中山 高嶺	蘭田 建	大澤 宣彦	中山 昌人	大澤 孝	井上 靖	持田 倫武	金鑽 俊樹	茂木 治男	神島 歩	中山 真樹	高野 浩成	加賀崎千秋	中村 邦彦
-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	-------	------	--------	-------	-------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	------	-------	-------	------	------	-------	-------	-------	------	-------	-------	-------	-------

支 部

北足立	支部長	吉田 正臣
入間東	支部長	宮本 洋平
入間西	支部長	仲富 祥則
比 企	支部長	枝窪 邦茂
秩 父	支部長	岡部 憲夫
大里見玉	支部長	甲田 豊治
さきたま	支部長	曾根原正宏
埼玉東	支部長	浅見 知史
	支部長	持田 倫武
	支部長	高野 浩成
	支部長	中村 邦彦
	支部長	渡邊 敏明
	支部長	高梨 佳樹
	支部長	中村 大徳
県総代会役員	水川神社総代	大野 隆司
	川越八幡神社役員	久保田 一男
	菅谷神社総代	根岸 豊
	三輪神社総代	秋元 修
	佐谷田神社総代	加賀崎千秋
	旗井神社総代	江森 茂
	秩父神社総代	井上 靖

(埼玉 東)

相澤 力	渡邊 秀男	堀越 薫	渡邊 敏明	江森 茂	高梨 佳樹	鈴木 重臣	馬場 裕彦	小林 威朗	中村 大徳	小林 政夫
------	-------	------	-------	------	-------	-------	-------	-------	-------	-------

4・28 庁務日誌抄

[illegible]

「埼玉県神社庁参宮団」のご案内

奉賛・国民総参覧の趣旨のもと、新穀の豊かな稔を感謝する新穀感謝祭が行われました。神宮大麻増頒布や次期遷宮に向けて参宮促進運動を展開致したく、当庁の事業の一つとして伊勢神宮新穀感謝祭への参列の勧奨を行います。

社務ご多用の折大変恐縮乍ら、趣旨ご賢察の上、是非ご参加下さいますようお願い申し上げます。

実施日 令和七年十二月二十四日(月)～二十五日(火)一泊二日
行程 【一日目】

午後一時十五分
午後四時十五分
午後五時三十分
午後六時三十分

ＪＲ名古屋駅集合
二見興玉神社正式参拝（浜参宮）
伊勢市内ホテル到着
夕食（伊勢市内を予定）
バス乗車出発

【二四】

午前八時 豐受大神宮特別參拜
午前九時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午前十一時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後一時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後二時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後三時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後四時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後五時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後六時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後七時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後八時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後九時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後十時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後十一時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納
午後十二時 皇大神宮特別參拜・御神樂奉納

午前十一時頃
午後一時十五分
午後四時三十分

星食（岩戸屋）及びおにぎり田舎衆
神宮徴古館・農業館見学
JR名古屋駅解散（バス車内にて解散）

午後七時十五分 J R東京駅到着

参加費 【東京駅発】五万五千元 【名古屋駅発】三万五千元

※参加費には、玉串料・新幹線及びバス交通費・宿泊費・食事費・保険料が含まれます。

※申込後に請求書を送付致します。

※チラシは当庁神職専用サイトより印刷可能。
・定員六十五名（最少催行人員は二十名）にて募集し、

- ・ 達しない場合は取り止めることがあります。
- ・ 神宮特別参拝時の服装について、男性は必ず上着・ネクタイを、女性はスリッポンはフットマレな服装を

・一日目の昼食及び二日目の夕食は、参加費に含まれてを。着用下さい。

- ・ホテルはシングルルーム一名一室利用を原則として
おりませんので、各自でご手配下さい。

いますが、ツインルームをご希望の場合は申し込み時に神社庁までご相談下さい。